

# 11年目の空中大和茶カフェ

このカフェの目的は大和茶のPRというよりは茶農家の本当の煎茶の醍醐味を知って欲しいという「想い」と日々自分たちを育ててくれたお茶に対する感謝の気持ちからの行動です。今までお茶を栽培し加工するだけで、どう流通させるかまで考えなくてもよかった茶農家がこの期間限定のカフェで皆さまの前で語り、丁寧に心を込めて淹れさせていただきます。茶農家にとっても皆さまの“美味しい”と感じられたことが今後の仕事へのモチベーションにつながります。是非ともこの機会に、さわやかな香りと深い味わいの奈良の煎茶をご賞味ください。皆さまのご来店を心よりお待ちしております。

## 11-13 AUGUST 2019

# サト

暑中お見舞い申し上げます。この夏も空中大和茶カフェでお会いしましょう。

# 小

会 場：奈良公園バスターミナル東棟2階情報広場

奈良市登大路町 76 番地（県庁舎の東隣）

※ 駐車場はございませんので、お車でのご来場はお近くの駐車場または公共交通機関をご利用ください。

日 時：2019年8月11日（日）～13日（火）

入替え制

- ①17:00-17:40
- ②18:00-18:40
- ③19:00-19:40
- ④20:00-20:40

内 容：茶農家による煎茶の真髄を御体験いただけます。

参加費：1,000円(税込)／極上大和茶、お菓子、お茶のお土産

定 員：各回 16名

予約制：申込は、Eメールで<<8月10日(土)締切>>

①氏名 ②電話番号 ③希望日時 ④参加人数

\* 先着順

\* 当日券若干あり

主 催：空中大和茶カフェ実行委員会

問合せ：The Sencha Tea Room「煎茶と靴下、そして葉草」

・申込：Eメール [thesenchatearoom@gmail.com](mailto:thesenchatearoom@gmail.com)

・問合せ：TEL 070-5438-2016 \* 土日月：12:00～20:00、火金：12:00～16:00

■ <http://sencha.exblog.jp/> \* 雨天でも開催します。



2009年夏、「空中大和茶カフェ」の初まりは、苦難の連続でした。

開催そのものにも沢山のハードルがありました。そして、迎えた開催日の間際でもメンバー間の意見が交錯し、かなりの緊張感をもって本番を迎えたことが今となっては懐かしく思い出されます。それでも終えた後は、すべての苦勞を吹き飛ばすくらい皆が充実感を得ることが出来ました。それから開催ごとに議論が白熱しメンバーの入れ替わりもありました。特に、この取組みが大和茶のPRや売り込み活動ではなく、急須離れが進んでいる今の時代に対して「急須で淹れる煎茶の愉しみ」を再浸透させる取組みであることが、人によっては理解されないこともありました。しかし、それら乗り越えてでも今までやってこれたのは、煎茶に対する共通の想いがあったからです。そして、この取組みが多くのボランティアの方たちによって支えられている状況に込める意味でも、「急須で淹れる煎茶の愉しみ」の普及が実現できるように、さらにブラッシュアップを進めていきたいと考えています。

煎茶は、私たちの五感を呼び覚まし、人との絆を結びます。



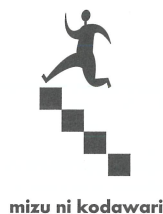
irekata ni kodawari



chanoha ni kodawari



ondo ni kodawari



mizu ni kodawari

あわただしい日常生活から解き放たれた豊かなひと時、茶葉にこだわり、急須や湯のみにこだわり、水にこだわり、温度にこだわり、淹れ方にこだわり、全体のスタイルにこだわり、そして、その時間を一緒に共有できる人のことを大切に考えます。



将来の「地方分権」を見越して、行政と民間が“協働”して進めてきた取組みとも評価されたりします。この取組みには、皆の力を引き出そうとする人はいても率いるリーダーはいません。また、行政主導でもなく、民間主導でもないのです。これは将来に向けてのネットワーク型社会の形成にも通じるかもしれません。運営には、所属部署に関係がなく数多くの職員がボランティアで参加しています。行政単独では解決できない問題がある場合、または個人や小規模グループだけでは解決できない問題などがある場合に、相互にお互いの不足を補い合い、ともに協力して課題解決に取り組むことを補完性の原則と言いますが、それを目指したものとも言えるでしょう。また、「補完性の原則」は「持続可能性の原則」とも結びつくもので、地方の自立に向けたステップには欠かせないものです。前述のように大和茶を単に地方の特産物としてPRしたいがための取組みではなく、他産地の想いを同じくする茶農家や行政職員とも励まし合いながら、急須で淹れる煎茶の愉しみを伝えたいという想いで取組んできました。まだまだゴールには至っていませんが、この「空間」を協働で構築し、さらにその空間を使いながらの行政と民間との共通行動、共通体験によって、官民が互いに将来の協働型社会のイメージが描けるようになってきたのが大きな収穫かもしれません。